

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

令和2年度 学校経営推進事業『さつき「授業力向上」プロジェクト ～進路実現のための素養（考える力、学ぶ意欲）を育む～』により、普通教室にプロジェクト1台、およびロール式スクリーン等(総額100数万円)を設置し、授業の効率化、思考判断・成果発表等の時間確保による「主体的に学びに向かう態度の育成」を図る。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

※ 授業満足度 R5年度には85%以上を維持 (H30 86%、R1 88% R2 86.6%)
[強い満足度60%]

授業以外の学習1時間以上 R5年度には60%をめざす (H30 40%、R1 30% R2 28.9%)

進路指導に対する肯定率 R5年度には85%以上を維持 (H30 85%、R1 88% R2 88.6%)

[学力診断テストにおける学力評価(2年次のCゾーン以上の割合)55%]

[難関・中堅私立大学への進学者数 35名]

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※ 部活動加入率 R5年度には70%をめざす (H30 65%、R1 60% R2 65.5%)

遅刻者数 R5年度には1000人をめざす (H30 1285人、R1 1170人 R2)

(3) 総合的に人権教育を推進することにより、安全・安心な学びの場を維持するとともに、差別やいじめを許さない人間性を育む。

- ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR等、すべての教育活動において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。
- イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Webページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。
- ウ 危機管理体制を充実させる。 ※ 学校説明会理解度 R5年度には90%以上を維持 (H30 98%、R1 99%、R2 99.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア ICT を活用し継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 ・生徒端末の導入に伴い、フォーム等による授業理解度の把握、毎時の振返等、授業改善に繋げる イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行う。また、「生徒の主体的に学びに向かう態度」について、評価の方法、基準を検討する中で指導力向上を図る。	ア・授業満足度 85%以上維持 [86.6%] ・授業見学 2.5 回/人 [3.26 回/人] イ・学校教育自己診断(教員)における「学習形態等の工夫を行った」自己評価 85%以上 [85.3%]	
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。 イ・図書室内自習スペースおよび自習室等を整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・授業以外の学習 1 時間以上の生徒 40% [28.9%] ・講習・補習の延参加者 3000 人以上 [1280 人] イ・自習スペースののべ活用者 200 名以上 ウ・図書館利用率 30%以上 [29%] エ・英検受験者数 80 人以上 維持 [97 人]	
	(3) 進路指導の充実 ア 3 年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア・1 年次「職業理解」2 年次「上級学校理解」3 年次「進路実現」の目標に沿って、進路 HR を中心に継続的な進路指導を行う。 イ・進路実現に向け、段階的な目標を明示することで、学習意欲を向上させ、具体的に取り組ませる。模擬試験実施前後のガイダンス・分析会を開催し指導に生かす。	ア・進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 [88.6%] イ・学力診断テストにおける学力評価(2 年次の C ゾーン以上の割合) [29.6%] 難関・中堅私立大学への進学者数 35 名 [12 名]	
2 豊かな人間性の涵養	(1) 協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化 ウ 地域貢献	ア・体育祭や文化祭、HR 活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。 イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。 ・3 年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 ウ・地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(スクール・ガード・サポート)、中学生との部活動交流、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。	ア・体育祭満足度 90%以上 [87.3%] 文化祭満足度 85%以上 [65.0%] イ・部活動加入率 65% [65.5%] ・校内あいさつ運動への参加 延部活数 60 以上 [68 部] ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 800 人以上 [371 人]	
	(2) 学校生活における規律の確立 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導 ウ 清掃指導の徹底	ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。 ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。	ア・遅刻者数 前年度 10%減少 [1465 人] イ・交通安全指導・意見交換会を年 3 回実施し、保護者に情報を提示する機会を設ける。 [2 回] ウ・学校教育自己診断(教員)における肯定的評価 50% [38.9%]	
	(3) 総合的な人権教育の推進	ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR 等、すべての教育活動において協働的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。 イ 3 年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。	学校教育自己診断(生徒)における生徒の肯定的回答 『命の大切さを学ぶ機会』80%以上 [84.5%] 『人権について学ぶ機会』80%以上 [84.8%]	

府立北かわち阜が丘高等学校

3 活 力 あ る 学 校 づ く り	(1) 専門コース等の教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実	ア・海外から留学中の大学生等の授業参加 または、テレビ会議により海外の学校との交流を 2回/年以上実施する イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策 ウ・習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成	ア・留学生等を1人以上招く または 海外の学校とのテレビ会議交流 を2回/年以上 [1回] イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上 (R2 2級 0名 準2級 8 名) ※第1回 結果 ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が 中学生を指導する。	
	(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への 対応 イ 働き方改革	ア・(週30時間に減じた)新教育課程の編成、総合的な 探究の時間等、生徒の探究力の育成を図る。 ・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導 部長を中心として準備を進める。 イ・掲示板の活用により、職員会議のペーパーレス、報告 に要する時間の短縮を図る。	ア・教育課程検討の進捗状況 授業力向上委員会 4回以上の開催 (観点別学習評価のプレ実施。学びに 向かう態度の育成・評価についての 校内検討等) [新規] ・大学入試対策の進捗状況 イ・掲示板活用数 50件以上 [160件]	
	(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信 ウ 危機管理	ア・令和2年度に改定した学校パンフレット作成過程 を教員中心から生徒も交えた取組に変更。在校生 のメッセージ等、学校説明会、外部説明会、中学校 訪問等の更なる充実を図る。 イ・Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保 護者や地域に積極的に発信する。 ウ 危機管理体制の適切な運用・持続性のある運用 方法を検討。 教職員及び生徒等の緊急連絡体制を確保する。	ア・学校説明会 理解度 90% 以上を維持 [99.3%] イ・Web ページ更新 200回以上を維持 [125回] ウ・緊急連絡体制の整備状況 100% [100%] ※ 臨時休業時のオンライン課題 配信等による学習保障ができ る体制・コンテンツ等の整備	